

農研生環第 197 号  
平成15年6月17号

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ツマグロヨコバイとヒメトビウンカの保毒虫率検定結果（技術情報4号）について（送付）  
このことについて、技術情報を下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

保毒虫率検定結果の概要（別紙1）

ツマグロヨコバイはイネ萎縮病、ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病のウイルス病を媒介し、子孫に経卵伝染を行う。

ツマグロヨコバイを県内10ヶ所より採集し、316頭においてウイルス検定（萎縮病）を行った。保毒虫率は2.5%となり、平年値0.4%（H9～H13）よりやや高く、平成9年以降の調査において最も高い値となった。

ヒメトビウンカを県内10ヶ所より採集し、639頭においてウイルス検定（縞葉枯病）を行った。保毒虫率は1.6%となり、平年値0.6%（H9～H13）よりやや高く、平成9年以降の調査において最も高い値となった。

保毒虫率が高くなると、ウイルス病の発生も多くなります。今回の保毒虫率の値は地域間差が認められ、平年値と比較すると高く、今後注意が必要です。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター  
生産環境研究所病害虫研究室  
予察指導係（病害虫防除所）  
担当： 樋口  
TEL096-248-6490  
FAX096-248-6493